

杉並自主パトロール隊 ホークアイ(東京都)



月に一度の集団夜間パトロール

GPS・写真付き携帯電話の送信による不審者等の警察通報ITシステムの活用

住民の多様性を重視し、自立した治安維持活動を継続的にやっていく事を最重要課題として隊を運営している。また、地域においては、いかなる個人も団体も平等であり、その平等性を維持することで治安維持活動のみならず、防災、まちづくり等を含む「地域の活性化」、地方自治分権、無駄な補助金の廃止等、健全な税金の運営にも寄与する事も立証できると考え活動を行っている。

そして、将来的には地上波デジタル放送、ブロードバンド通信網の整備された情報通信環境下で、国民すべてが「いつでも、どこでもだれにでも」情報入手できる「ユビキタスコミュニティー」を形成していく中で、その地域の治安維持活動を行う上では、所轄警察署に適切で迅速、明快な情報を国民が提供する事が要求されると考えられることから、携帯電話、パソコン、GPS 情報等を駆使し活動を行っている。

また、この携帯電話、パソコン、GPS 情報等を駆使し活動を行うことにより、活動を行う隊員の時間的制約を排除することができ、参加する住民の生活環境の多様性にも配慮することができる。

以上の要点を主眼に、「杉並自主パトロール隊 ホークアイ」の活動を報告する。

スローガン、マークの説明

「できる人が、できる時に、できる事を、できる所で」

群れずに、各隊員が自立して活動を行う

組織の特徴

町会、商店会には依存しない、自立した 30 ~ 40 歳代を中心とした団体

防犯活動の写真、その説明

単独行動、情報収集

ホークアイの防犯活動の基本の説明
迅速、的確な 110 番通報が基本活動
青色回転灯の説明
現在、青色回転灯を申請中
防犯情報メールのサンプルを用いた説明
インターネットの情報も有効に活用し、地域の犯罪情報などをメールで配信
携帯電話、パソコンを用いた情報発信、共有の概略説明
各隊員が携帯電話、パソコンでどのように情報収集、発信を行い、関係機関に報告するのかについての流れを説明
携帯電話での情報収集、データサンプルの説明
情報収集方法の実例、データサンプルの説明
収集した情報、データを用いたマップ作成の説明
収集したデータで作る防犯マップをサンプルで説明
パソコンでデータ化されたマップの利点の説明
紙ベースではない防犯マップの利点を説明
会議をしないで意思決定を行う上でのパソコンを使用した掲示板の説明
24 時間対応可能な隊員相互の意見交換、意志決定方法を説明
収集したデータに学校通学区域図、通学路線図、航空写真を合わせた 3 次元的報告書の説明
多種多様な地図情報を用いた報告書、マップの説明
隊員以外の住民に対する啓蒙活動用サンプルデータの説明
住民の自発的な活動を誘発するための啓蒙活動用データの説明
防犯活動以外のオプション的活動を写真にて説明（違法広告除却、A E D・C P R 訓練）
防犯活動以外でのオプション的活動の報告

杉並自主パトロール隊 ホークアイ(東京都)

それでは、次に東京の杉並自主パトロール隊の皆さんでございます。よろしくお願いします。

内藤 すいません。お待たせいたしました。東京の杉並区から参りました杉並自主防犯パトロール隊 ホークアイの内藤と申します。よろしくお願いします。

この後、3人で順番に、先発が私で、その次に岩田という者と田畑。最後の締めにもまた私に戻ってまいりまして、私は一応、隊長ということでやらせていただいております。

スローガン・マーク「できる人が、
できる時に、できる事を、できる所で」

まず、私の胸にも背中にもありますが、私たちのキャッチフレーズということで、もう3年前ぐらいから「できる人が、できる時に、できる事を、できる所で」ということで、ホークアイ、こういう名前にしました。このマークはですね、各個人で、自己責任に基づいて1人で飛びなさいと。それから眼光を鋭く、目線を鋭く、町の中を飛び回しましょう。それから、羽ばたける人は自分の力、自己責任でいるんなことをやってみましょうという意味でホークアイというマークをつくりました。



組織の特徴

私たちの組織の特徴は、商店街、町会には依存してません。お金もいただいてませんし、実際僕は町の電気屋さんなんですけども、ほかにも今日来てる方は住民の方ですし、30代、40代を中心とした有志の団体で構成してます。

書いてませんが、構成員は、最初35名だったんですけど、今、2人転勤でいなくなって33名。うち1人は、今ちょうどドイツの方にだんなさんが転勤になったんで、ドイツの方で今、ドイツで何かいろんな情報があったら送ってねってということで、メールで送ってくれるような形でその人もやめてもらってないで、今33名で動いています。

活動状況

活動はですね、基本的に自己責任に基づく単独行動。とにかく110番と。自分で何かするんじゃないかと、不審者、不審車を見つけたら110番してねと。

それからですね、全く会議をしません。意思決定も最初に決めた基本パターンがありますので、それをやるだけです。意思決定はしませんので、相談事は全部パソコン、メール、インターネットを使ってやっています。メールもですね、後でご紹介しますけど、毎日いろんなインターネット上の情報を検索したり、警視庁さんから、所轄警察さんから、杉並区さんからいただいている情報を隊員にセレクトしてお渡しすると。

それから、ついでのパトロールのついででも選べるということですね、パトロールばかりしていると飽きてしまいますので、その他オプションを用意しましてですね、もしやる気があるならやってみようということで、僕の方でいくつかメニューを用意して、隊員の中の有志の方のさらに有志の方で編成しています。

それから、断りやすい活動で長続きということですね。一応たまに集まったりするんですけど、来なくてもいいですと。とにかくボランティアですから、仕事とあなたの家族、あなたの人生の方が大事ですから、できるときだけで結構ですと。あなたはあなたのままでいいということで、ちょっとだけ力を貸してくれるなら貸してくださいということで、どんどんはっきり断ってもらっています。

こちらがですね、たまに集まった集合写真なんですけど、左の方は杉並区さんで防犯団体の集まりがあったときに、自分たちのところから杉並区まで歩いていこうということで、途中の高井戸警察署さんで集まったときの集合写真。右側がですね、月の1回だけ夜パトロールしましょうということで、みんなで集まっているんですけど、これも来なくなれば来なくていいということを明言していますので、このときはたまたま6名、写しているのが私なんですけど、7名で回りました。

これはですね、ここで何かを見つけようとか不審者を見つけようとかいうんじゃないかと、町の人たちにこういうパトロール隊がいるんだよということですね、なるべくこのときは人がいっぱいいるところを歩いています。こんな人たちがいるんだよということ体を感治安アップということで活動しています。

30~40代を中心とした有志の団体



**自己責任に基づく単独行動(とにかく110番)
ホークアイの防犯活動の基本行動は
不審者、不審車両等を発見次第
自分の身の安全を確保した上で
必要な情報を迅速に110番通報する事**



それで、通常どういうふうのパトロールしているのかということで、先ほども言いましたが、自己責任に基づく単独行動、とにかく110番と。ホークアイの防犯活動の基本行動は、不審者、不審車を発見次第、自分の身の安全を確保した上で必要な情報を迅速に110番通報すること。

左の写真はですね、豆腐屋さんなんですけど、こちらも町の中回りながらプレートをつけて腕章つけて、それから何かあれば110番通報、ないしは私の方に情報を送ってもらえれば、私の方から全員に発信すると。

右側はですね、とても電気屋さんに見えませんが、私が近くのところに行き仕事に行くときの格好でございまして、こんなのが町の中回ってますからかなりその目的の人たちは嫌なんじゃないかなと。

自己責任に基づく単独行動、情報収集、装備方法等は自分で考えるということで、あげぜん据ぜんを待たない、自分でやると。装備もですね、こういう洋服とかこういう腕章とか、ほかにもあるんですけど、買いたい人は買ってくださいと。別に買わなくてもいいですよ。ただ、心がけでパトロールしてくださいと。欲しくなったら買えばいいし、欲しくないなら買わなくてもいいということですね、私も今42なんですけど、自腹を切って、ちょっとそれも苦しいかなと思うんですけど、まあ地域のためだからいいかなと。

**自己責任に基づく単独行動、情報収集
装備、方法等は、自分で考える
上げ膳、据え膳を待たない
自分でやる**



青色回転灯

今、青色回転灯の方を、前にやられた皆さんもそうですが、私たちも青色回転灯をこれから装着しようということで、今、申請しております、左が住民の方の車で、右が、これも私の電気屋の車でして、とても電気屋には見えなくてあれなんですけど、こういうので町の中をぐるぐるとできるときに回ってます。

防犯情報メール

続いて情報収集、どういうふうな形で情報を享受しているのかということでご説明します。

岩田 引き続きまして、私たちの活動の特徴の一つだと思われるんですけども、いわゆるIT、情報技術、特にパソコンと、あと携帯電話を使いましてお互いの情報共有、こういったことを図って進めてきております。

今日のご説明だけでどこまでイメージつかんでいただけるかなとは思んですけども、具体的な事例をお示ししながら、皆様に少しでもイメージをつかんでいただければと思います。

まず、こちらなんですけれども、これは情報の共有ということで、主に、先ほど説明しました私どもの隊長の方から、各種官公署で出している防犯情報、こういったものをピックアップしまして、隊員に一齐にメール配信をする。そういう形で隊員の中で今こういったことが起きているというような情報の共有を図ってきております。

これが2点目。これが一番大きな特徴かと思うんですけども、GISと呼ばれます、いわゆる地図情報システムというもの、それからGPS機能、位置情報ですね、カーナビ等で使われておりますけれども、これをパソコンと、また、携帯電話、この2つを使いまして、皆で情報共有できる、こうした仕組みを活用しております。

この仕組みなんですけれども、産官学民、いわゆるIT企業さん、それから官としては自治体、私どもが存しております杉並区もその中に入っているんですけども、それから学として大学、それから民としては私たちのような民間団体ですね、地域団体、この4者が連携してこの仕組みをよりいいものにしていこうという研究会をつくっております、その研究会として、この仕組み、情報システムというものを提供していただいております。

では、以下、具体的にどのようにやっているのか、説明したいと思います。

まず、これがですね、スタートラインになるんですけども、各隊員が町の中を歩いている中で気になった防犯上とか、その他の面でも気になったポイントをカメラ付の携帯電話、これで撮影をします。このカメラ付携帯電話、先ほどの研究会の方から当初借りておりまして、位置情報、どこで撮影したのかということもわかるような機能がついております。撮影したものをピッと送信という形でお送りしますと、これがパソコンの方でのシステムの全体像になるんですけども、これの中に上に今、「公共施設」



パトロール中に携帯で情報収集



というページが映っているんですが、その横に「安全安心」というオレンジ色のものがあると思います。あちらを見ますと、このような画面になります。この左側の方に「自主パトネット」というものがあるんですが、これをさらにクリックしますと、そのページの中にですね、先ほど携帯電話で撮った写真が、送信としますと、このようにパソコンの画面上に自動的にセットされるようになっております。コメント等は、先ほどカメラで撮ったときの携帯電話でコメントを書いてもいいですし、後ほどこちらの画面を開いてパソコン上でつけ加えてもいいんですけども、こういった形で隊員の中で写真、こういった情報を絵として共有できます。

マップ作成

そして、もう一つの特徴としまして、実際に撮影した場所ですね、これが自動でこのように地図にマッピング、どの場所で撮影したのかということが自動で掲載されるようになっております。この画面はある程度広域の地図なんですけれども、こちらの画面のようにより細かいといえますが、狭い範囲ですね、大きくした形でどの地点から撮影をしたのかといったことも情報として示せるようになっております。

そういった形で撮影した写真、そして書いたコメント、こういったものをもとにしまして、いわゆる地域安全マップといったものを、やはり電子的に情報が残っておりますので、非常に簡単にこのように1枚のマップとして作成することができるといった形になっております。

さらに、電子的にデータを残しておりますので、例えば改善前と改善後ですね、もともとちょっとここは防犯上、こういった面でなかなか危ないんじゃないかといった形で、先ほどのページのような安全マップをつくって、関係する官公署、警察であったり、区役所であったり、そういったところに持って行って実際に対応してもらったら、こういう結果になりましたというような地図も比較的いいですか、非常に容易につくれるような形になっております。

あとですね、このシステム、仕組み自体のほかの機能としましては、こういった形で写真を載せなくてもですね、メンバーお互いの中で議論ができるような機能がついております。



先ほどのページで右の方に「掲示板」という欄があったんですけども、そこをあけますと、お互いメンバーの中で特定のテーマ、また、写真のあるページであれば、防犯上の問題点等についてお互いに意見交換ができるようになっております。

冒頭、内藤の方から話がありましたけれども、私たちは30代、40代というところが中心ですので、なかなかたとえ夜とはいってもですね、一堂にメンバーが集まることは非常に難しいというのが現実問題としてありますので、こういった仕組みを使って時間等問わずにお互いの意見交換をする。実際これちょっと見づらいと思いますけれども、時間も午後の2時、3時というところから、人によっては書き込んでいる時間が夜中の2時近くという形でお互いの意見交換を進めております。

このシステム、パソコンの仕組みとして、研究会ではほかの地図情報も順次機能として乗せてきていただいております。例えば各学校への通学路ですね、通学路の情報ですとか、あと航空写真、これ右側の方がいわゆる航空写真ですけども、こういったものも機能として乗せてきていただいておりますので、今はこれらを組み合わせていろいろな情報ですね、航空写真と先ほどの地図情報、また、私たちが撮った写真の情報、こういったものを組み合わせてより、私たちの中ではグレードアップしたと思っていますけれども、そうした安全マップをつくるというようなことも行ってきております。

情報共有

あとはですね、防犯に限らずお互いの中で情報共有を図っていく、そういう中でまちづくりというものに高めていって、さらに言えば、いわゆる住民自治と呼ばれる、住む人たちの中での自治を高めていくという機能もこれからは高めていきたい。これは例としていいのかわからないですけども、東京の杉並区でも蛇は出ます。蛇が出たときの情報を写真としてメンバーが撮って、この蛇って安全な蛇なのとか、危ない蛇なのとか、そういったこともお互いの中で使おうと思えば使えるという1例で掲載しております。

あと、こちらがですね、私ども先ほど、今33名の隊員という形で言っておりましたけれども、やはりそれ以外の方から参加させてほしいというお申し出いただくこともございます。ただですね、今、見ていただいたように、ある程度フランクな形でいろいろな意見交換を行うような形で隊としての運営を進めていっておりますので、むしろ人数が、このホークアイというチームに人数が膨れ上がるよりも、それだけ防犯に関心を持っていただけるのであれば、またそういった方が新たに防犯自主団体をつくっていただきたいというスタンスで活動しております。

まずは、ここに挙げておりますような各警察署や自治体から防犯に関する情報が発信されておりますので、まずそういったことを皆さんも自分で取得してみてくださいというような形で投げかけをして、またここには載っていませんけれども、例えば杉並区では防犯自主団体を立ち上げるときには、一定の助成、こういったものも行ってありますので、その助成の仕方等をお申し出をいただいた



方にご説明をする。場合によっては一緒に書類をつくったりということもやってきておりますけれども、そのような形で進めてきております。

ただ、そうはいいまでも、携帯電話やパソコンを使える方ばかりではございませんので、使えない方が、私たちはどうすればこういった防犯の情報を知ることができるのというご質問に近いものがあつたときには、今、杉並の方で流れておりますケーブルテレビでもこのように欄外とありますが、形で実際に防犯情報をテロップで流してくれるようになっておりますので、そういったところから情報をぜひとってくださいというような形でお示したりしております。

では、ここでちょっと男性の説明が続きましたので、女性にかわりたいと思います。

オプション的活動

田畑 ここからはホークアイのパトロール隊のオプションの部分についてのお話をちょっとさせていただきます。

少し防犯から離れてしまうところもちょっとあるんですが、お話いたします。

無理のないついでのパトロールをしながら安全・安心まちづくりということを考えていると、しないよりはした方がいいんじゃないかとか、できないよりはできていた方がいいんじゃないかなということが幾つか出てきます。そういったついでにできることというのを少し探しながら見つけては試しているという、そういうオプション活動も行っています。

この左側の写真ですが、どこの町でもよく見られる違法看板です。これは落書きとか放置自転車、それからごみ散乱という汚い町とか人の無関心な町というのには犯罪は増えるということとはよく言われていますが、この看板についても同じようなことだと思います。ただ、これについては、勝手に取ってしまうと、やはりちょっとトラブルというものが発生してしまいます。杉並区では、平成16年にしっかりちゃんと講習勉強して、それで講習を受けた者に対して規則範囲内で取ってもよいという資格制度が始まりました。今、持ってきているこのような杉並区の違法広告物除却活動協力員という腕章をつけて、それでこれはちょっと言葉あれなんですけど、引っぱがし活動というのをしています。

右の写真ですが、これは救急救命講習の練習の様子です。この写真は近くの駅前のコーヒースョップ店内、しかも営業時間中の様子です。不特定多数の人たちが集まるところとか時間を設定して、そこで実施して、1人でも多くの人たちに知ってもらおうということと、あとは資格取得者たちが自分た



ついでのパトロールのついでも選べる



ちの忘れないための練習ということでも行っております。

次、これは震災訓練のときに近くの中学校に救急救命の指導のお手伝いに行ったときの様子です。これは訓練そのもの自体もとても大切なことだと思うんですけども、中学生初め、小さい子や、あと父兄の方、休みの日だったのでたくさんいらっシャっているということで、地域の人たちと顔合わせできる、顔見知りになれるいい機会だったなと思っております。

この左下は、普通救命の資格をとっているときなんですが、隊員の中に町の地元の駐在のお巡りさんも入っていただいています。その方にもこの日は参加していただいています。

また、1つメンバーの中には地元の内科・小児科の先生も入っていただいているので、救命に関してはすごく心強い体制になっています。

右下は、2年前に杉並区が記録的な1時間に112ミリという豪雨に遭ってしまったときの様子です。隊員の多くは、この町に生まれ育った人たちですので、神田川の、どこの場所がはらんしたり浸水したりしてしまうかとか、マンホールのふたがあいてしまうかというのをすごく知っているために、すごく事前的な準備とか発生時の自衛的な活動ができていると思います。

これは、先ほどお話したGPSメール配信システムを利用している一例です。10月1日スタートの緊急地震速報についても、ちょっと住民から結構質問が来るので、それに対して今度、警察庁さんの情報がとてもわかりやすかったので、そのアドレスを紹介して、各自勉強をして対応できるようにということで配信いたしました。下も同じように防災に関するメール配信です。

現在、東京都とか全国的にも防犯パトロール隊というのはたくさんできていると思うんですが、いざ何かチームを結成するいうときに、すごくたくさんの力とか苦勞とかがかかると思うんですけども、せっかくここでたくさんつくられている既存の防犯パトロール隊に、少し救急とか防災の面をオプションでつけて、警察と消防両面から活動ができると一層自分たちの町が安全で安心な町だなという気持ちで暮らせるのではないかと考えております。



まとめ

内藤 私が隊長として、それから隊員の中でもある程度意識を持ってやっている人たちが、いつもどういう気持ちでやっているのか、いつも気をつけていることということで、全体を最小限の力で最適に保つと。仕事ではありません。給料出ませんので、なるべく楽にやりたいなど。でも、全体を最適にみんなが満足できるような状態にしたいなど。書いてませんが、やる気のある人はやりやすく、そうでない人はそれなりでいいと私は思っています。

それから、必要なときに必要なだけということに任せる勇氣、できないという勇氣、見守る我慢ということに、なるべくできる人がいればどんどん任せます。それで、見守って我慢します。僕がやっちゃえば早いのになとも思っても、我慢するということをやっていますし、ほかの隊員の人ももっと私ならできるのにも思っても、だれかできる人があれば、その人にパスするような形をして、最終的にサッカーでいうとゴールに結びつけると。

それから、プロを尊重し、評価しながら、プロがやりやすくということに、僕、町の電気屋さんですけど、エアコン取りつけないときに、汚い部屋ときれいな部屋どっちがいいかということ、やっぱりきれいな部屋で作業しやすい方がいい。ということは、警察も行政の方も消防の方も、やっぱりプロがやりやすい状態に私たちボランティアがしておくことによって、プロの人がやりやすくなるということに、最終的にはプロの人が頑張ってもらいたいと思いつつながら、私たちがアシストするという気持ちであります。

インフォメーションをインテリジェンスにということに、いろんな行動で得た必要な情報を迅速に入手して、入手した情報を素早く分析して、必要な人とか正しく使える人に素早く渡し、自己責任に任せて自由にやらせてもらって、結果を分析して、また次に生かすという繰り返しですべて行動をしてきていると。

ということで、私たちの発表は終わりなんですけど、あと詳しくはですね、ちょっとここでばっと映してありますが、ホームページありますので、「ホークアイ、防犯」ということでインターネットクリックしていただくと出てくると思いますので、ひとつよろしくお願ひいたします。どうもありがとうございました。

司会 大変ありがとうございました。非常にユニークな活動をしておりまして、全国的に見ても非常に珍しい活動をされていると思います。私自身、非常に勉強になりました。どうもありがとうございました。

何かご質問等ありますか。

今日たまたま私、山梨から来るときに、電車で来たんですが、電車の線路の杉並の辺ですね、異常なほど落書きが多いんですが、これはさっきのオプションの問題でどんなふうにとらえていらっしゃるのか。



内藤 たまたまなんですけど、確かに私どものエリアも多いんですけど、僕たちのエリアに関しては落書きが少ないんですけど、でもあるところに関しては、やっぱりだれかがやってくれるっていうのではなくて、やっぱり自分の塀だとか、近くの人が自分でやるという方向性でどうしたらいいのかというのを聞かれた場合に答えるのであって、こちらからあえて働きかけはしていません。やっぱり自分のものなんだから自分でやるというのが基本なんで、その辺で自分の塀に書かれたなら自分で何らかの形をして、できない範囲は多分相談してくるだろうと思って、さっきの話じゃないですけど、じっと見てます。ただ、把握はしてます。情報としても持っています。

ありがとうございます。例えば自助ということですね。うんと自分で物事を判断する。なるほど、わかりました。ありがとうございます。